



## 円相場、一時 152 円台後半に上昇 日銀維持も買い優勢に

31 日午前の東京外国為替市場で円相場が強含んでいる。12 時半ごろに一時 1 ドル=152 円 97 銭近辺と前日 17 時時点と比べ 35 銭の円高・ドル安水準をつけた。日銀は 31 日、政策金利の維持を決定。結果公表直後に一時 153 円 62 銭近辺まで下落したものの、追加利上げの余地を残したとして次第に円買い・ドル売りが増えた。12 時時点は 153 円 35~36 銭と同 3 銭の円安・ドル高だった。

日銀は 31 日まで開いた金融政策決定会合で政策金利を現行の 0.25%程度で維持すると決めた。政策維持は予想通りで、あわせて公表した「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」も前回 7 月と大きな変化がなかった。だが、市場では「11 月の米大統領選など不確実性が高いなかで慎重なものの、12 月利上げの可能性をまだ残しているように見える」(国内銀行ストラテジスト)との受け止めもあり、円買い・ドル売りを誘った。

対ユーロでのドル安進行も円の対ドル相場を支えた。30 日発表された 7~9 月期のユーロ圏の実質域内総生産(GDP)速報値が市場予想を上回り、欧州景気が急速に減速するとの懸念が和らいだ。欧州中央銀行(ECB)の大幅利下げ観測が後退したとして対ユーロでドル安が進み、対円でもドル売りが広がった。

円相場は上値の重さも目立った。中値決済に向けては月末決済も絡んで輸入企業など国内実需筋による円売り・ドル買い観測が意識された。30 日発表された 10 月の ADP 全米雇用リポートで雇用者数の伸びが市場予想を大きく上回り、米金利の先高観を意識した円売り・ドル買いも出た。

円は対ユーロでは下落した。12 時時点は 1 ユーロ=166 円 36~41 銭と、同 49 銭の円安・ユーロ高だった。ECB の大幅利下げ観測の後退を受け、一時 166 円 65 銭近辺と 7 月 30 日以来およそ 3 カ月ぶりの円安・ユーロ高水準をつけた。だが、日銀会合の結果が明らかになると対ユーロでも円買いが増え、12 時すぎには 166 円 17 銭近辺まで下げ渋る場面があった。

ユーロは対ドルで上昇した。12 時時点は 1 ユーロ=1.0849 ドル近辺と同 0.0031 ドルのユーロ高・ドル安だった。



## 原油、続伸 需給逼迫を意識 金は横ばい圏

31日朝方の国内商品先物市場で、原油は続伸して取引を始めた。中心限月の2025年3月物は1キロリットル6万6700円と前日の清算値に比べ1130円高い水準で寄り付いた。需給の引き締まりを背景に前日30日のニューヨーク原油先物が上昇し、国内原油先物にも買いが先行している。

石油輸出国機構(OPEC)と非加盟国のロシアなど主要産油国で構成する「OPECプラス」が12月に開始を予定していた自主減産の縮小を延期する可能性があるとして、ロイター通信が30日に報じた。実現すれば10月に続く延期決定となる。同日、米エネルギー情報局(EIA)が公表した週間の石油在庫統計では原油やガソリンの在庫が減少し、需給の逼迫を意識した買いが入った。

金は前日から横ばい圏で推移している。中心限月の25年10月物は1グラム1万3772円と前日の清算値を8円下回る水準で取引を始めた。夜間取引で1万3794円と中心限月として最高値を更新していたため、利益確定を目的とした売りが先行している。一方、引き続き米大統領選などへの不透明感を背景とした買いが入り、前日比で上昇に転じる場面もあった。

白金は反落している。中心限月の25年10月物は1グラム4988円と前日の清算値を169円下回る水準で寄り付いた。



## OPEC プラス、減産緩和延期の可能性 ロイター報道

ロイター通信は 30 日、石油輸出国機構(OPEC)とロシアなどで構成する OPEC プラスの有志国が、12 月に予定する自主減産の緩和を延期する可能性があるとして報じた。米原油指標の WTI(ウエスト・テキサス・インターミディエート)は一時、前日比 2.9% 高の 1 バレル 69ドル台まで上昇した。

ロイターが複数の関係筋の話として伝えた。中国を中心に景気の先行き不安から世界の原油需要が伸び悩むとの見方が広がるなか、供給が過剰になるとの懸念があるとみられる。

サウジアラビアなど OPEC プラスの有志 8 カ国は、日量 220 万バレルの自主減産を 12 月から段階的に緩和して生産量を増やす方針だ。従来は 10 月から減産幅を縮小する計画だったが、9 月に 2 カ月遅らせることを決めていた。

ロイターの 30 日の報道によると、関係筋はこの緩和の開始時期をさらに少なくとも 1 カ月以上遅らせる可能性があるとして指摘したという。OPEC やサウジ政府はロイターのコメント要請に応じていない。

OPEC プラスは今月 2 日に開いた合同閣僚監視委員会(JMMC)で、12 月に減産を緩和する計画を維持することを確認していた。



## 脱石油依存目指すサウジ、日本企業の進出先に定着するか

### 「国民性」に商機

サウジアラビアの首都リヤドで 29 日、国際会議「未来投資イニシアチブ」が開幕した。31 日までの 3 日間、世界各国の首脳や経営者が人工知能(AI)や次世代エネルギー、環境問題について議論する。サウジは石油に依存する経済からの脱却を目指し、海外からの投資を呼び込んでおり、日本企業の中国や東南アジアに次ぐ投資先として注目度が高まっていきそうだ。

「来年は国交樹立から 70 周年を迎える。私たちはサウジアラビアのベストパートナーとして、豊かな未来を創るために大きく貢献することを約束する」

みずほ銀行の加藤勝彦頭取は 29 日の講演で、サウジへの投資強化を宣言した。水素分野への投資や、日本のスタートアップ(新興企業)をサウジに紹介する活動を展開すると述べ、今後リヤドに地域拠点を設ける計画も発表した。

### 産業多角化図るサウジ

この日の会議には、ほかにも複数の日本企業のトップや現地担当者が参加した。こうした動きには、サウジが産業の多角化を目指し、海外企業に積極的に投資を働きかけているという背景がある。

世界最大級の産油国であるサウジは、財政収入の多くを石油に頼る。ただ、他地域での石油増産や世界的な脱炭素化の流れによって石油価格が下落するリスクが強まり、同国政府は石油依存からの脱却を志向。2016 年に経済改革構想「ビジョン 2030」を発表し、国内総生産(GDP)に占める海外直接投資の割合を 16 年の 3・8%から 30 年には 5・7%に引き上げる目標を掲げた。

特に注力するのは、水素などの次世代エネルギー事業、インフラ関連事業などだ。現地生産や現地調達に対する優遇措置を講じるなどして投資を呼び込ん

できた。国際通貨基金(IMF)は、25年のサウジの実質経済成長率を4.6%と予測。これは20カ国・地域(G20)の中で4番目に高い水準だ。

## 日本のスタートアップにもチャンス

企業の海外投資を巡っては、ウクライナ危機や米中対立の深刻化により、これまで重視してきた中国への新規投資に慎重にならざるを得ないという事情もある。新たな投資先として有望視されるのがサウジだ。

日本貿易振興機構(ジェトロ)の秋山士郎リヤド事務所長は「サウジには一番良いものを好む国民性がある。高い技術を持っていれば、日本のスタートアップにもチャンスがある」と指摘する。

懸念点は複雑化する中東情勢だ。サウジはパレスチナ自治区ガザを巡る戦闘とは無縁だが、イスラム過激組織の活動が活発なイエメンやイラクなどと国境を接している。

企業が一度進出すると、その投資効果を回収するまで少なくとも数年かかるとされる。秋山氏は「今後、日本企業の進出が増えるかどうかは各社が中東情勢をどう判断するかで変わるだろう」と話している。



## ドライバー2024 年問題 外国人の採用に注目高まる

ドライバーの労働時間を制限する「物流の 2024 年問題」。企業が対応に迫られる中、「外国人人材の採用」に注目が高まっています。きょう、道が主催する外国人の採用を希望する企業に向けたセミナーが開かれました。

今年 3 月、国が「日本で働くことができる特定技能」として「自動車運送業」を追加したことから、今回、初めて運送業者を対象にした部門を設定しました。オンラインで相談した企業の採用担当者からは、仲介にかかる費用や日本に来る前に受ける試験などについて質問がありました。

セミナーで講師を務めたキャリアバンクの担当者は「ほかの職種に比べて自動車運送業は日本語能力の試験レベルが高く設定されています。外国人からみると、日本語レベルが高くないといけないと心配になると思います。海外でとった免許が日本ですぐに使えないので「外免切り替え」という手続きが必要です。外免切り替えの間も雇用はしなくてはいけないので給料も払わなくてはいけないのでハードルが高くなっています」と現状を話します。

北洋銀行が発表した雇用調査によりますと、道内の運送業では 81%の企業が人材不足の課題を抱えていて、路線バスの運休なども相次いでいます。道は、今後も運送業の外国人材採用の支援に力を入れていきたいとしています。



## 週間原油コストの推移

週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート(▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	9/17～9/23	74.47	2.45	143.20	▲0.31	67.07	2.07
	9/24～9/30	73.93	▲0.54	144.99	1.79	67.42	0.35
	10/1～10/7	75.69	1.76	147.07	2.08	70.01	2.59
	10/8～10/14	78.76	3.07	149.55	2.48	74.08	4.07
	10/15～10/21	74.56	▲4.20	150.63	1.08	70.64	▲3.44
	10/22～10/28	74.85	0.29	153.10	2.47	72.07	1.43
水曜日～ 火曜日	9/18～9/24	74.71	2.55	143.94	1.12	67.63	2.81
	9/25～10/1	73.46	▲1.25	145.06	1.12	67.02	▲0.61
	10/2～10/8	77.21	3.75	147.83	2.77	71.79	4.77
	10/9～10/15	78.04	0.83	149.99	2.16	73.62	1.83
	10/16～10/22	74.38	▲3.66	150.85	0.86	70.57	▲3.05
	10/23～10/29	74.70	0.32	153.54	2.69	72.13	1.56

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSLレート